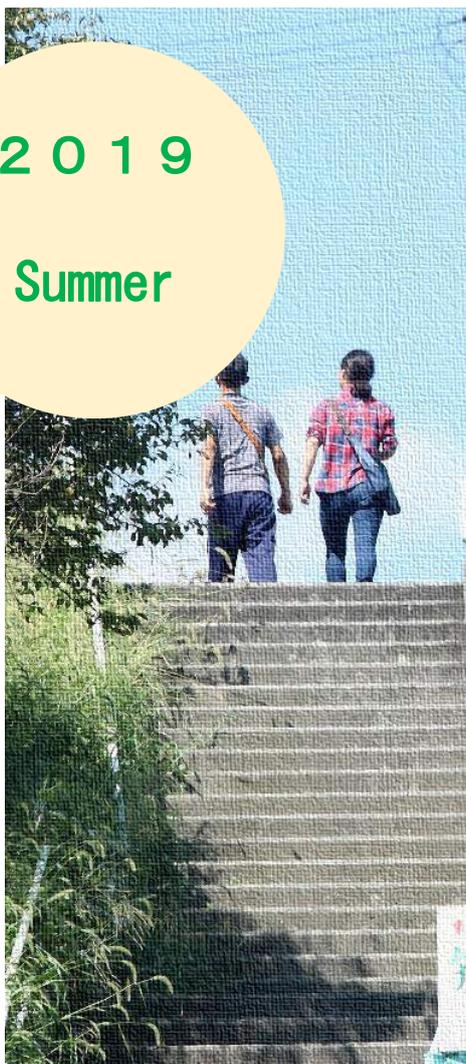


2019

Summer



ほにわ ほいほす



CONTENTS

- | | |
|-------|---------------------------|
| 01 | news / 理事長まえだのヨモヤマバナシ |
| 02 | お母さんの日々あれこれ |
| 03 | 地域探訪 / アトリエナニワ |
| 04-05 | Case book |
| 06 | ジムインコイケのなんでも日記 / サポータークラブ |
| 07 | スタッフ紹介 / あとがき |



先日、通所支援系の会議で、なにわの里開所以来30年勤続の原スタッフの還暦祝いをしました！

開所以来のスタッフはもう一人(中村スタッフ)いるのですが、30年利用者さんを支えてきたということに対して、ただただ感謝の思いです。

なにわの里ではフォーマルにも永年勤続の表彰をしているのですが、今回は係のスタッフが「還暦を祝おう！」と声をあげてくれました。なにわの里の娘・息子たちからのプレゼントでした。このことをぜひなにわの里に携わって下さっている方々にお伝えしたく、NEWSとして発信致します！(小池)

内部研修を実施しました

今年で3年目となりました、ABA(応用行動分析)実践研修。外部講師の方に来て頂き、現場のケースを取り上げてABAの視点から支援を進める、という実践形式の研修となっています。

先日発行いたしました「支援実践事例集2018-2019」でも、この研修で扱ったケースを掲載しています。「現場の中でも『この行動の目的は何だろう?』と深く考えるようになりました」と執筆したスタッフは話していました。

刻々と状況が変わっていく現場においては難しいこともありますが、実践研修で学んだ知識を活かして、地道な支援を進めていこうと思います。(小池)



「支援者ファースト」で行こう!

前回、障害児者福祉における「ファンファースト・ビジネスモデル」は構造上、成り立たないのでは? という話をしましたが、では、どうすれば「契約制度下における、公的・標準的な障害児者福祉サービスでは生存することすら危うい」という方々に対して支援を継続していくことができるのか?

答えはいたってシンプルです。まずは「支援者ファースト」を徹底していくしかない。と、高らかに宣言したいと思います。

(誤解を恐れずにザックリ言えば)現在、支援者は「割に合わない」中で何とか踏ん張って働いている」という状況ではないかと思えます。

例えば、一般の市場であれば「手間暇かけてある商品を完成させる職人」と「標準的な物ではなく」その商品がどうしてもほしい

消費者」がいれば、その商品の価格はほとんど高騰していくわけですが、障害児者福祉においては、国がその価格を決定します。現在、その公定価格では支援者が集まらない状況になってきたわけですが、その中でも踏ん張っているのは、現在の支援者です。

当然「お金だけの話ではない」という精神がそこにはあるのだと思いますが、だからこそ「支援者ファーストの『心』を、今こそ伝えていくことが何より大切ではないかと思えます。

「対価に見合わない」「心ない言動があびせられる」ということでは、本当に「割に合わない」ということになり、何の罪もない利用者さんだけがそこに残ってしまうという結末になりかねません。

契約制度下における公的責任を問いつつ、現在・現実の対応を地道に進めて行きましょう!

理事長まえだの ヨモヤマバナシ

暑さが苦手な私の術

すぐに汗をかくので、タオルと扇子は常に持ち歩いています☺そこにもう一つ GATSBY のボディペーパー（アイスタイプ男性用）を常備しています。色々試したけど女性用よりも男性用の方がスッキリして、拭いた瞬間はヒヤッとして心地よいです*✧*寒がりのお父さん以外家族全員が使っています！

あとは、料理であまり火を使わないように、レンジで野菜を柔らかくしたり、揚げ物はせずに買って食べたり、氷をかじるので冷凍庫に欠かさないようにしたり…。とにかく暑いとイライラしてくるので、極力暑さを避けるように、工夫しています☺!!

By ぐみ

暑いのが苦手な私も、道を歩く時は、日陰から日陰までは走っています☺
今年の夏も走って乗り切るぞ☺

(林(富)・始田)

今回のテーマ

暑さを乗り切る
—工夫—

お母さんの 日々あれこれ vol.23

お母さんが日々感じていることを
ちょっとだけ垣間見るコーナーです

昔はこれ…今はこれ…そして、今も昔も変わらないこと

子どもが小さいときは、お風呂で水遊び、これが定番でした。プールを用意すればいいのですが、やっぱり準備と片付けがめんどくさい…☺それなら簡単で、楽しいお風呂プールが最適でした。お風呂の中ではシャボン玉なんかもしていました✧

そして、成長した我が子はクーラーのきいた部屋でのんびりテレビ鑑賞です（笑）

そんな変化はありつつも、今も昔も変わらないのは、**冷凍丸ごとバナナ!**
皮をむいて、棒をさして、ラップをしたら冷凍庫へ。これをパクパク食べるのが我が家の暑い夏の過ごし方です☺

By ママさん



事業所等名称 総合教育センターCAD

〒582-0018

住所 柏原市大東 2-4-16-106

TEL 050-3576-7829



地 域 探 訪



地域で暮らす当事者の方や、ご家族が使える
社会資源を紹介するコーナーです



月に1度
の研修会



女性講師
も活躍中



家庭教師
ならではの
個別学習

今回お話を伺った吉村さんは、「今後、地域と連携を図りながらひとりひとりにあった学習サポートができれば」と話されていました。地域の貴重な社会資源が、大きく広がってほしいと感じたインタビューでした。

(川端)

また、講師のスキルアップのため月に1回、3、4人のグループに分かれ、ロールプレイ形式で「なぜ間違ったのか。どこが解れば正解するのか。」や「なぜ勉強するの?」など、お子さんから質問されそうなことを想定した内容の研修を行っています。

総合教育センターCADの講師は、大阪教育大学の学生又は卒業生で、特別支援教育を専攻している方も講師として活躍しています。利用前の面談時にお子さん、ご家族にしっかりとヒヤリングを行い、その上で『個性別』指導ができるよう担当の講師を決めていきます。利用が始まると週間スケジュールを作り、家の中の目立つ所に掲示し、ご家族の協力を得ながら勉強の習慣をつけていきます。

今回は、柏原、八尾、藤井寺、香芝を中心に、家庭教師の派遣をされている「総合教育センターCAD」の吉村朋也さんにお話を伺いました。

**アトリエ
ナニワ**

効果的な体操が行える補助ツール



理学療法士のアドバイスのもと肩の可動域を広める体操を行っています。「壁に近い位置に立って、腕を上下に高く上げること」これが効果的な体操をするためのポイントだそうです。では、それをどうやって利用者の方に伝えればいいのでしょうか...??そこがこのツールのポイントです★



ツールの説明

「どこまで腕を上げれば良いのか」この手形が目印となります

「壁に近い位置はどのへんか」この青枠内に入ること壁に近い位置に立つことができます



ツール使用中

ツールのメリット

言語指示では理解しにくい方でも、このように見ればわかる形に置き換えることで理解しやすくなります。やることややり方がわかれば、自信を持って意欲的に取り組むことにも繋がると思います。そうなればより一層の効果が期待できますね(*^-^*)

(梅林 真由子)

声の適切なボリュームを伝える支援

通所支援 2 係 大橋 一博

【A さんについて】

A さんは知的障害を伴う自閉症の男性です。電車や、都道府県の市町村名などに詳しく、スタッフが知らないことも教えて下さいます。

そんな A さんですが、声のボリュームがとても大きく、不安定な状態になると最大 110dB(デシベル)前後の大きさになることもあります。110dB がどのくらいの大きさかという、2m先にいる車にクラクションを鳴らされる程度です。※1

A さんは不安定な状態になると、気になること（例えば「熊本県へ行く旅行が悪天候の関係でなくなりました！」など）を何度も繰り返して話します。気になることを繰り返して言うことで、ヒートアップしてしまい、その状態が数時間続くこともありました。そうなることで、A さん自身にも、周りの利用者さんにも負担がかかってしまっていたため、この状況を改善する支援をする必要があると考えました。

【支援① ヒートアップする状況を改善する】

まずは、支援を受け入れやすい環境を作るため、気になることから意識を逸らす必要があると考えました。

A さんの普段の様子から、ヒートアップするきっかけとなっているのが、気になることを何度も繰り返して話すことではないかと考えました。

そこで、不安定な状態になると繰り返すワードが出てきたタイミングで、A さんが普段楽しそうに話されている都道府県の市町村や観光地に関する質問をするようにしました。

A さんは否定的な声かけが苦手で、誰かが否定的な言葉を言うと自分のことではなくても、不安定になってしまうことがある方です。そんな A さんに不快な想いをさせることなく、質問に集中してもらうにはどうしたらいいかを考えました。どうしても人の声には感情（焦り、苛立ちなど）が混ざってしまうため、その感情部分にも反応してしまうのではないかとこの考え、パソコンの音声で伝える方が、人の声で伝えるよりも質問に集中できるのではないかと考えました。

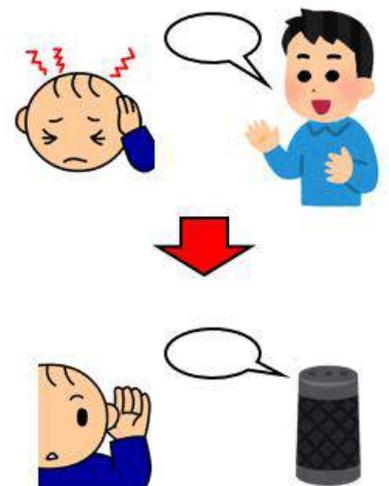
そこで、都道府県に関する質問をする際、スタッフが自分の声で質問するのではなく、打ち込んだ台詞を読み上げてくれるパソコンのソフト※2 を使って質問するようにしました。

支援を開始するとすぐに効果があり、こちらからの質問に答えているうちに、気になることから、都道府県に関する質問に意識が切り替わっていきました。この対応を 1 ヶ月続けたところ、対応期間中はヒートアップすることはほとんどなくなりましたが、声のボリュームは依然、大きいままでした。

騒音値の基準と目安

騒音値はデシベル (dB) という単位で表されます。一度は聞かれたことがある程度かとは思いますが、具体的に何デシベルどのくらいの騒音になるのかをご存知の方が少ないのでは無いでしょうか。下記には一般的な騒音値と騒音発生原因の感じ方の目安を示しています。

目安(うるささ)	目安(身体/生活への影響)	騒音値 (dB)	騒音発生源と距離 (大きさの目安)
きこえてうるさい	騒音継続に異常を感じず	120 dB	・ショット (飛行機) エンジン音の近く
		110 dB	・自動車クラクション (2m)
		100 dB	・電車が通るときのガード下 ・滝圧プレス (1m)
うるさくて我慢できない		90 dB	・犬の吠き声 (5m) ・寝ぐらし工場の中 ・カマキリ (室内中央) ・ブルドーザー (5m)
		80 dB	・地下鉄の案内 ・電車の案内・ピアノ (1m) ・高圧水圧 (1m) ・扇風機が少し騒む音 (1m)
うるさい	かなりうるさい。が、かなり大きな声を出さないと会話ができない	70 dB	・寝ぐらし工場の中 ・寝ぐらし工場 (2m) ・やわらかい扇風機 (1m)
		60 dB	・騒音発生源 ・騒音の発生 ・洗濯機 (1m) ・掃除機 (1m) ・テレビ (1m) ・トイレ (洗浄音) ・アイドリング (2m)
普通	大きく聞こえる。通常の会話が可能	50 dB	・静かな扇風機 ・家庭用クーラー (窓外側) ・掃除機 (1m)
		40 dB	・室内の静寂 ・静かな道路 ・静かな住宅の音



【支援② 適切な声のボリュームを伝える】

支援①でヒートアップしにくい環境ができたため、次に適切な声のボリュームを伝える支援を行いました。

支援方法ですが、支援①で使用した、打ち込んだ台詞を読み上げてくれるパソコンのソフトで、適切な声のボリュームを伝えました。支援のポイントは以下の通りになります。



↑音声読み上げソフトの使用画面です。

- ①パソコンの音声の音量を毎回同じにする（60～65 dB程度を基準に設定）。
- ②打ち込む台詞は「これくらいの声で話して下さい。よろしくをお願いします。」とする。
- ③音声に注目してもらうために、台詞の初めに館内アナウンスで使用されている音「ピンポンパンポン↑」を入れ、台詞の終わりを知らせるために最後にも「ピンポンパンポン↓」を入れる。
- ④支援中は 10～12 時(一番声のボリュームが大きくなる時間帯)に音の大きさを測定する(最大値、平均値を測定。不安定な日のみ測定)。※3

※支援前のデータも取っておくのが理想ですが、今回は最大値しか取れていませんでした…

支援を開始すると、今回もすぐに効果があり、「このくらいの声で話して下さい。よろしくをお願いします。」と伝えると、それまで 100dB くらいで話していた A さんの声が、85dB 程度にまで小さくなりました。

初日の最大値は 100.7dB、平均は 72.3dB でした。以降、少しずつ声のボリュームは落ちていき、支援最終日には最大値が 87.7dB（電車の車内程度）、平均は 55.4dB（静かな事務所程度）になりました。

現在では、声のボリュームの目安をお伝えしなくても、A さんの普段の話し声は 65dB 程度になっています。

【まとめ】

これまで私は、大きな声を出している利用者さんに対して「静かにして下さい」「小さい声で話して下さい」といった声かけをしていました。しかし、「静か」「小さい」といった言葉は非常に分かり辛く、具体性に欠けます。「静か」「小さい」などの言葉は、その言葉を聞いた人、一人ひとりのイメージによって変わってきます。スタッフの「小さい」が、A さんの「小さい」と全く違うイメージであるとすれば、これまで A さんは自分のイメージの中の「小さい」声で話してくれていたのかも知れません。

今回の支援で、具体的な音の大きさをモデルで示し、A さん自身の耳で聞いてもらった結果、「あっ、これくらいの声で話して欲しいんだな」と伝わったのではないかと感じました。ただ、A さんがヒートアップしている状態では、おそらく今回の支援はうまくいかなかったと思います。

まずは、利用者さんが支援を受け入れやすい、安心できる環境を作り、利用者さんに伝わる表現方法で支援していく必要があると感じました。今後も、様々な支援で今回の支援で学んだことを生かしていきたいと思います。



↑音量測定アプリの使用画面です。測定期間の音量の最小値、平均値、最大値を自動で算出してくれます。

【参考文献、使用したソフト、アプリ】

※1 日本聴音調査ソーチャー (https://www.skklab.com/standard_value) 参照

※2 音声読み上げソフト【 SofTalk(ソフトウェア)】

※3 音量測定アプリ【 聴音測定器: Sound Meter - Decibel(dB)】

「ただ」聞くこと

今号から始まりました、新コーナーです。私小池はなにわの里で勤めて14年になる事務員であります。現場10年、事務員4年という感じで、なにわの里の中でもベテランになってきました。もともと人と話すのは好きですし、「ちよつとはベテラン扱いこともせねば」と思い、元気のなさそうなスタッフがいたら、なるべく声をかけるように心がけている……つもりです。

そんな先日のこと、あるスタッフの話を聞いておりました。頭では「こういう時は、まずはただ聞くことが大切だ」とはわかっているのです。自分の経験からも「こういう時はただただ聞いてもらえたらありがたいよな」とわかってはいたのです。……が、気持ちがどうしても焦ってしまい、偉そうにあれやこれやと全く身のない助言をしている自分がおりました。大いに反省です……。

学生時代に、「受容」とか「傾聴」とかそんな単語を聞いたことがある方はいないでしょうか。さんざん「大切だぞ」と教えて頂き、現場にも10年いたくせに、まだそんなこと言っとんのか、と学生時代の先生方に怒られてしまっそうですが、自分の気持ちをコントロールし、「ただ聞く」として実は難しいことだな、と最近になって感じます。気持ちの修業が足りない、ということなのだろうな、と感じました。

なにわの里サポータークラブに資金又は物品・労力などでご支援をいただいた方々（敬称略・順不同）
2019年 4月 1日 ~ 2019年 6月 30日

法人・団体の部

カシワラテック 岩崎商店	工和工業株式会社 松井鐵工株式会社	株式会社パリー 公認会計士澤田義実事務所	特定非営利活動法人けいき イワタニ近畿株式会社
-----------------	----------------------	-------------------------	----------------------------

個人の部

馬場 幸枝	油利 悦彰	西村 透	山下 孝子	車谷 二三夫	小島 純子
森 克雄	延田 京子	町野 隆	鈴木 曠二郎	四方 世津子	小畑 チヅ子
瀬戸 俊之	田中 美希	西田 照美	松田 紀弘	松田 ちか子	中谷 孝
佐々木 久子	中川 恵介	北森 英次	西田 芳雄	井形 正信	多田 操
北森 英美	首藤 浩二	藤原 昌	坂本 信晴	川島 白鶴	松尾 和子
白根 英樹	川島 伸也	高岸 一夫	肥塚 泰子	渡邊 信邦	井上 明子
白根 勝雄	保田 信一	湯淺 美奈子	稲葉 聖代	杉本 武志	

なにわの里スタッフの紹介コーナーです。
インタビュー形式で、スタッフの声をお届け
します!



湯田 豊
(入所・グループホーム支援2
係)

— 湯田さんは大学卒業後、学校で障害のある子どもをサポートする仕事をしていたんですね?

はい、特別支援学級にいたこともありますし、通常学級でサポートが必要な子どもに付いたこともありま
した。よく覚えているのが、市内の特別支援学級に通う子ども全員が集まって、川遊びに行った時のこと。
100名くらいの子どもがいたのですが、大きなトラブルもなく楽しく遊ぶことができていました。
先生方が個別に丁寧な対応をされていたんでしょうね。

— 入職から12年、一度も欠勤がありません。秘訣は?

手洗い・うがいを欠かさず行、ということでしょうか。学校で働き始めた一年目、三人で一つのクラスを
担当していたんです。一人休むともう大変で。社会人一年目でそういう環境に置かれたのが大きかったんで
しょうね。健康管理には気を付けるようになりました。

— いつも穏やかな湯田さんですが、気持ちの安定のために心がけていることはありますか?

そりゃあ落ち込むこともあるのですが、「人と話して切り替える」ことは心掛けています。
人に話して、外に出すことで気持ちが晴れることもあります。それを意識的にすることはありますね。
遅出の後、スタッフルームにいる人を「ちょっと」とつかまえたりしています(笑)。

STAFF INTERVIEW

あ
と
が
き

● 先日義父が他界したのですが、告別式の日が偶然にも孫(私の
子ども)の誕生日。「じいじも喜んでくれるよね」と、遺影の前
でハッピーバースデーをみんなで歌いました。(小池)

● 暑いのが(寒いのも)苦手な私ですが、この季節の楽しみとい
えば枝豆です。やっぱり茹でたては冷凍物とは全然違ってめ
っちゃ美味しいです!ビールと枝豆最高で一す!(樫田)

スタッフうへ



2019年 夏号(No.95)

2019年 8月23日発行

発行責任者 前田研介

社会福祉法人 なにわの里

〒582-0025 柏原市国分西 1-3-43HOPE 102

E-mail naniwa@naniwanosato.jp

HP <http://www.nanwanosato.jp>